

テーブルの向こう側から 補足資料
～Vol.29～

2018年12月発行

TABLE FOR TWO(TFT) プログラムをご担当くださっている皆さまへ

日頃からTFTプログラム実施のため、多大なるご支援を頂戴しまして誠にありがとうございます。

TFTの活動は日本でのヘルシーな食生活の推進と、支援先での学校給食の提供が両輪になっています。ニュースレター「テーブルの向こう側から」では、支援先の様子と日本国内のTFTプログラムご参加団体のユニークなお取り組みについてお伝えしています。

食堂をご利用される皆さまに親しんでいただけるよう、改良を重ねてまいりたいと考えております。皆様からのご意見やご感想をお聞かせいただけますと幸いです。

フィリピン カステリヤホスでの給食プログラム

TFTはフィリピンのルソン島西部カステリヤホスの小学校で、栄養失調と診断された119名の生徒に学校給食を提供しています。

フィリピンは火山や台風など自然災害に見舞われることが多い国です。カステリヤホスにも、20世紀最大規模の大噴火となったピナツボ山噴火の被災者再定住地区があります。故郷を離れることになった家庭の子どもたちが、学校で学び、社会に羽ばたくためにも給食は大きな役割を果たしています。

日本国内での活動状況のお知らせ

＜これまでに寄せられたご寄付＞ ＊TFT事務局に入金された寄付金額ベースで食数に換算

累計 **6,431万9241食分**（2018年9月時点）

東アフリカとアジアの6カ国（ウガンダ、エチオピア、ケニア、タンザニア、ルワンダ、フィリピン）で学校給食の提供と菜園・農業支援を推進しています。

＜「おにぎりアクション」へのご参加、ありがとうございました！＞

10月16日の世界食料デーを記念して実施した「おにぎりアクション2018」が無事に終了しました。多くの企業そして個人サポーターの皆さまに、様々なかたちでご支援、応援いただいたことに、あらためて心より御礼申し上げます。

おにぎりの写真1枚の投稿につき、アフリカ・アジアの子どもたちに給食5食を届けることができる「おにぎりアクション」に、今年は**20万枚を超えるおにぎり写真**が寄せられ、協賛企業からのご寄付で**約100万食の給食**を届けることができる見込みです。

「おにぎりアクション」の結果は、<https://onigiri-action.com> でご報告しています。

Facebookページで情報発信中



www.facebook.com/tft.jp/

発育不良と診断された119人への給食支援

首都マニラからバスを乗り継いで5時間ほどの場所に位置するカステリヤホスのバライバイ小学校には約850名の子ども達が通っています。そのなかで発育不良と診断された生徒119人に給食を提供しています。

校内の健康診断では身長に対して標準体重以下の生徒の人数を記録し、健康状態の判断材料にしています。

フィリピンでは毎年6～7%の経済成長が続いていますが、貧困世帯率は下がっていません。貧困世帯の食料確保の問題が放置された結果、5歳以下の発育不全の割合が拡大しているという指摘もあります。



年度始めに寄生虫を駆除して健康改善

フィリピンの農村部では水や野菜に生息する寄生虫を避けるのは難しく、寄生虫症によって、子どもが貧血を起こしやすくなり、成長が妨げられ、学業成績の低下につながると考えられています。

2017年にデング熱（致死性の感染症）を予防するためのワクチン接種により、深刻な症状が出る可能性が指摘され、子ども向けの公的接種が中止されました。

デング熱ワクチンに関する一連の報道により、一部の親たちの間で、予防接種や薬への不信感が高まりました。

その影響で2017年には寄生虫駆除の飲み薬を拒否した親もいました。長年使われてきたもので安全への懸念はなく、効果が大いことを説明し、2018年にはほとんどの生徒が寄生虫駆除薬を服用しました。



母親たちが協力して調理する給食

調理から配膳、片付けまでの一連の作業は、生徒の母親が担当しています。給食室には3つのガスコンロがあり、大きな鍋で給食を作っています。暑い時期には気温が35度を超える蒸し暑い中で、汗をかきながら調理しています。生徒たちが午前中の授業を終えて食堂にやってくる11時過ぎには、お皿が食堂のテーブルにずらりと並べられています。

母親たちは定期的に栄養についての講習会に参加しています。給食のメニュー考案に役立てるだけでなく、家庭での食事の栄養バランスに配慮するよう呼びかけられています。



菜園での栽培活動で、野菜嫌い克服を目指す

フィリピンでは肉と米を使った料理が好まれており、野菜の摂取量が少ないことが問題視されています。バライバイ小学校の生徒にも野菜嫌いの子が多くいます。

学校菜園の目的は収穫した野菜を給食の材料にすることですが、自分で育てた野菜に愛着を感じ、野菜を食べるきっかけにしてほしいという狙いもあります。



熱帯地域に位置するフィリピンは自然災害が多い国です。毎年、いくつかの台風が直撃し、大雨による洪水被害に遭う地域がある一方で、日照りによる干ばつが起きることもあります。地震や火山噴火のリスクにもさらされています。

カステリヤホスの周辺地域は地盤が緩いという問題を抱えています。6月から9月までの雨季には、大雨の影響で道路の陥没や、橋の崩落などの被害が起きています。

バライバイ小学校でも地盤の変形により教室の壁にひびが入り、生徒の安全確保のために閉鎖している教室があります。



災害に強い学校づくり

日本では公立学校の耐震化が全国規模で進められてきました。フィリピンでも災害に強い学校づくりのための投資が必要とされていますが、予算の確保や地盤の問題などもあり、カステリヤホス地域でもなかなか進んでいません。



自然災害への対応には、日ごろからの住民同士のつながりも大切です。学校は生徒の親たちだけでなく、周辺に住む住民をつなげる役割も果たしています。